

通学路旗当番ハンドブック

児童は学年があがるにつれ交通状況の理解度が向上していきませんが、最初から理解しているわけではありません。

教えられて初めて信号の意味や道路の仕組みを理解します。

児童は図のように大人よりも視界がせまく、目の高さも低いため、大人に見えている危険が児童には見えないことが多いのです。

旗当番に出かける前に

- お子さんの学校の準備などは前日に済ませておく。
- 火の始末、戸締りなどのチェックをする。

旗当番に立つ前に

- 車や自転車から見やすい目立つ色の服装を着用する。

動きやすい、かかとの低い靴を履く。

雨や雪の日は両手を使えるようにレインコートを着用する。

現地には5分前に到着し、児童を待つ。

やむを得ず、乳児・幼児を現地に連れて行く場合は、一人歩きさせず、両手を使えるように工夫する。

携帯の操作は絶対にしない。

立つ時に

児童の右側に立ちます。

電柱の陰になる場所を避けて、自転車からよく見える位置に立ちましょう。

歩行者・自転車の通行の妨げになる場所や民家の出入り口をなるべく避ける。

合図のタイミング

時速 40 kmで走る車が止まるには、約 17 メートル程の距離が必要と言われています。旗を上げて車に合図するときは、車が止まるために十分な距離があることを確認しましょう。(雨の場合は停止までの距離がのびる)

旗を上げても、車の運転手がこれを認めるとは限らないことも十分留意しておきましょう。(旗で車を止めない)

万が一、交通事故が起こった場合

まずは、冷静な対応を心がける。けが人を救護し、警察・学校へ連絡をする。

子どもの特性

- 子ども、特に低学年は、大人よりも視野が狭く、視点も低いため、大人から見えている危険が子どもには見えていないことが多いです。
- 判断を大人に依存する傾向があります。
- 子どもによって、危険予測能力や危険回避能力に差があります。

～大人と子どもの視野の違い～

水平視野 約150°
垂直視野 約120°

約90°
約70°

こんなに違うんです！信号の見え方

4.5m
2.5m
5m

子どもから見えていない部分に注意が向けられるように、声掛けや指さしをして見せることが有効ですね。

「京都府警子ども見守りハンドブック」より

誘導旗の使い方

旗は、誘導者が、横断児童を保護誘導する際、通行車両への合図の目印となるものです。正しく持つとともに正確に動作を行いましょう。

旗の持ち方→左手は棒の下から、右手は棒の上からしっかり握る

基本の動き

～児童を待たせるとき～

①児童の右側に立ち、旗は児童の前になすぐ出します。

♡声かけ 『前に詰めて』と声をかけ、列を短くするように促します。

♡詰められたら 『おはようございます』

- ・歩道通行可の歩道では、自転車が通れるスペースもとるようにしましょう。
- ・雨の日は傘の幅を見て、いつもより列を減らし、他の歩行者や自転車も通れるようにしましょう。

～車への合図～

②右・左・右の安全を確かめて、旗を頭上に上げます。

左手の平を児童の前になすぐ出し、飛び出しを防ぎます。

～児童を渡らせるとき～

③旗を上げたまま、もう一度、右・左・右の安全を確かめて、車がいなかったり、止まってくれたら、旗を道路側に出して、児童をさっさと渡らせる。

♡声かけ 『手を上げてさっさと渡りましょう』

(ペアの方は横断歩道の反対側に立ち、周囲を広く見て、曲がってくる車がないか見ながら渡ってくる児童を素早く安全な場所へ誘導する)

④後方から遅れてくる児童がないかを確認します

児童がいても、左手で止めて横断させないようにします。

～児童が横断し終わったら～

⑤旗を一度、上げてから元に戻します。

待ってくれたドライバーに笑顔で会釈。

※誘導中、車道に出る場合は、すり抜けてくるバイクや自転車に十分注意して、ご自分の身も守ってください。

